

## 【学力向上】

### 〈現状〉

#### ◆全国学力・学習状況調査の全国順位

小学校:10位以内、中学校10位以内

小学校:⑳25位→㉑19位→㉒31位→㉓29位

中学校:㉔41位→㉕34位→㉖40位→㉗19位

#### ◆授業以外で平日に1時間以上学習する児童生徒の割合

小学校:71.0% 中学校:70.0%

小学校:㉘68.6%(全国62.5%)→㉙71.0%(全国64.4%)→㉚72.7%(全国64.4%)→㉛72.1%(全国66.1%)

中学校:㉜57.2%(全国67.9%)→㉝59.2%(全国69.6%)→㉞60.4%(全国70.6%)→㉟64.6%(全国69.8%)

### 〈これまでの主な取組〉

#### 【授業改善】

- ・学力定着状況確認テストの実施による、秋の段階での学習状況の確認と学習内容の確実な定着
- ・中学校において、授業改革推進チームの全市町村(岡山市を除く)への配置による、授業改善の一層の推進

#### 【補充学習の充実】

- ・放課後学習サポート事業の充実による、学習上のつまずきの解消

#### 【家庭学習習慣の定着】

- ・宿題の内容や出し方・評価の工夫等による、学習意欲の向上と学習習慣の定着

## 【長期欠席・不登校対策】

### 〈現状〉

#### ◆不登校出現率

小学校㉑0.45%(全国0.39%)→㉒0.46%(全国0.42%)→㉓0.51%(全国0.47%)→㉔0.57%(全国0.54%)

中学校㉕2.76%(全国2.76%)→㉖2.49%(全国2.83%)→㉗2.47%(全国3.01%)→㉘2.70%(全国3.25%)

### 〈これまでの主な取組〉

#### 【重点的支援】

- ・小中学校へのSCの全校配置及びSSWの派遣
- ・中学校へ専属教員等を配置した専用教室を設置し、一人ひとりの生徒の状態に応じた支援の徹底

#### 【早期対応】

- ・小学校への登校支援員の配置
- ・福祉等の関係機関との連携や医療の視点からのアプローチなどにより、学校全体の組織的な対応を推進し、新たな長期欠席・不登校を生まないための取組の徹底

#### 【未然防止】

- ・小学校への生徒指導専任リーダーの拡充配置、就学前からのSSWの活用の推進

## 【グローバル人材の育成】

### 〈現状〉

#### ◆海外の学校と姉妹校提携を締結している県立高等学校数

20校

㉑8校→㉒8校→㉓11校→㉔16校

#### ◆県内高校生の留学者数

㉑246人→㉒243人→㉓319人→㉔380人

#### ◆英検準1級以上等を取得している英語担当教員の割合

中学校 50.0% 高校75.0%

中学校㉑23.1%(全国30.2%)→㉒29.4%(全国32.0%)→㉓28.5%(全国33.6%)→㉔34.2%(全国36.2%)

高校 ㉑55.6%(全国57.3%)→㉒60.2%(全国62.2%)→㉓76.9%(全国65.4%)→㉔86.0%(全国68.2%)

### 〈これまでの主な取組〉

#### 【高校生の留学促進】

- ・留学経費の支援
- ・留学コーディネーターによる、海外姉妹校提携の拡大

#### 【教員の英語力・英語指導力の向上】

- ・英会話スクールなど民間と連携した研修の実施

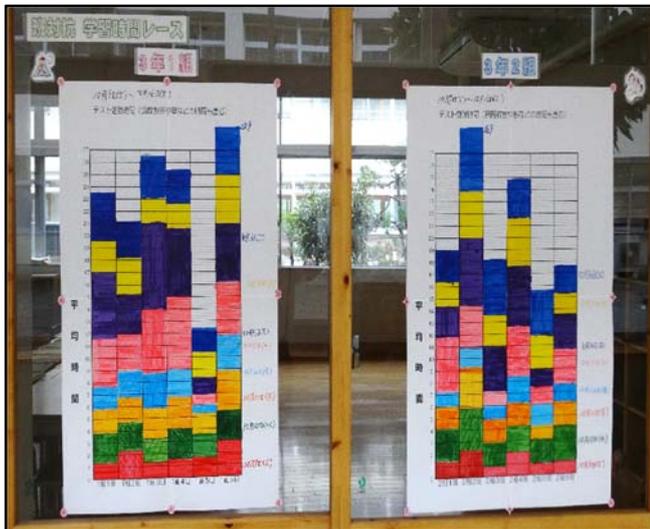
## 学力向上

### 津山市立鶴山中学校

- ・ 学習の手引きの作成
- ・ 生徒間の教え合い学習の実施
- ・ 課題提出物カレンダーの作成と家庭学習時間の可視化
- ・ 放課後や土曜日等における補充学習の実施



教え合い学習



家庭学習時間の可視化



補充学習

### 奈義町立奈義中学校

- ・ 家庭学習時間の増加に向けた取組の推進

#### ○取組内容 … クラス間で学習時間を競う

- ・ 毎週水曜日(ノー部活動デー)に、学校以外の学習時間を増やす取組
- ・ 調査用紙を使用して全員の毎週水曜日の家庭学習時間を調査
- ・ 集計結果を毎回公表し、各クラスで呼びかけの実施
- ・ 学期ごとに、採取調査終了後、調査結果を基に学力向上委員会で検討し、表彰

## 地域との連携・協働

新学習指導要領の基本理念である「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、さらなる地域との連携・協働が求められている。

### コミュニティ・スクール及び地域学校協働本部の取組事例

#### ・勝央町立勝央中学校



学校運営協議会



図書整備作業



給食試食



授業参観

#### ・浅口市立鴨方東小学校



体育館ワックスがけ



校内パトロール



環境整備



とんどまつり（地域主体の行事へ移行）

# 長期欠席・不登校対策

長期欠席・不登校対策として、状態評価や支援対象者リスト等を盛り込んだ『岡山型長期欠席・不登校対策スタンダード』を平成31年3月に作成した。

今年度、このスタンダードの普及を図り、子ども一人一人の状況に応じて、登校支援員の効果的な配置や関係機関との連携、医療の視点からのアプローチなど、学校全体の組織的な対応を推進している。

## 状態評価の導入

状態	登校状況	外出状況	状況の詳細	対応方針
<b>状態 0</b>  ほぼ普通に登校している	登校できる	外出できる	登校に対する心理的負担を抱え、行き渋りがみられることもあるが、毎日登校できている状態	早期発見 早期対応
<b>状態 1</b>  遅刻・欠席がしばしばある 保健室通いが多い			週1〜2日休む程度で登校している。または、登校できているが、早退や遅刻が週のうち半分以上、あるいは、保健室や別室をしばしば利用する状態	
<b>状態 2</b>  保健室・別室登校 半分以上欠席している			週3日以上欠席している。または登校しているが、保健室・別室登校が半分以上の状態	
<b>状態 3</b>  学校以外の施設への 定期的参加ができている	登校できない	外出できない	登校はできないが、学校以外の場所(教育支援センター(適応指導教室)等)には定期的に通うことができている状態	自立支援 復帰支援
<b>状態 4</b>  比較的気軽に外出できる			登校はできず、定期的に通える場所もないが、外出は比較的自由にできる状態	
<b>状態 5</b>  家庭内では安定しているが 外出は難しい			登校できないが、家では落ち着いた生活ができている。外にはほとんど出ないが、家族と関わることができる状態	
<b>状態 6</b>  部屋に閉じこもり、家族とも ほとんど顔を合わせない			登校できず、家でもほとんど自室から出ず、家族と関わることもなく、心理的に不安定で、生活リズムの乱れも大きい状態	

## グローバル人材の育成

平成29年度からGTECを実施し、生徒の英語4技能(聞く・話す・読む・書く)を測定するとともに、その結果等を授業改善に活用している。

平成29、30年度に継続してGTECを受検し、達成率(スコア)を大幅に伸ばした学校もある。

